



全ト協発第283号(環)

令和元年9月10日

各都道府県トラック協会会長 殿

公益社団法人 全日本トラック協会

会 長 坂 本 克 己



**信号機のない横断歩道における歩行者優先等を徹底するための取組について
(協力依頼)**

平素は当協会の事業運営に種々ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、警察庁交通局交通企画課長から、別添のとおり、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、信号機のない横断歩道における歩行者優先を徹底するための更なるルール遵守の徹底のため、各都道府県警察においては、横断歩道に関わる交通ルール遵守に向けた各種取組を継続して推進するとともに、秋の交通安全運動期間中の1日を対策強化日として指定し、街頭における指導取締りや広報啓発活動を展開することについて周知を図るよう、協力依頼がありました。

つきましては、貴協会におかれましても、本取組や、横断歩道手前での減速義務や横断歩道における歩行者優先義務など、プロのドライバーとして模範となる運転の引き続きの実践について、傘下の会員事業者に対する周知徹底を図っていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

(本件に関する問い合わせ先)

公益社団法人 全日本トラック協会 交通・環境部

電話：03-3354-1045 FAX：03-3354-1019

警察庁丁交企発第94号

令和元年9月5日

公益社団法人

全日本トラック協会会長 殿

警察庁交通局交通企画課

課長 早川 智之



信号機のない横断歩道における歩行者優先等を徹底するための取組について(協力依頼)

平素から警察行政の各般にわたり御理解と御協力を賜り感謝申し上げます。

警察では、自動車対歩行者の死亡事故の約7割が道路横断中に発生していることや、信号機のない横断歩道における死亡事故では自動車の横断歩道手前での減速が不十分であることなどを踏まえ、昨年来、全国一斉の広報啓発強化期間を設けるなど、信号機のない横断歩道における歩行者優先等を徹底するための取組を推進しています。

さらに、我が国は、交通事故死者数に占める歩行中死者の割合が欧米諸国に比べ高いことや、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、歩行者優先が定着している諸外国からの訪日外国人観光客の増加が見込まれることから、更なるルール遵守の徹底が求められているところです。

そのため、警察といたしましては、各都道府県において横断歩道に関わる交通ルール遵守に向けた各種取組を継続して推進するとともに、秋の全国交通安全運動では、期間中の9月24日から26日までの3日間のうち1日を対策強化日として各都道府県ごとに指定し、街頭における指導取締りや広報啓発活動を展開することとしています。

貴協会におかれましても、本取組について傘下会員に周知いただくとともに、横断歩道手前での減速義務や横断歩道における歩行者優先義務など、プロのドライバーとして模範となる運転を引き続き実践していただきますようお願い申し上げます。

本件担当

警察庁交通局交通企画課安全係

電話 (03)3581-0141 内線5045

私の視点

Mark Rebuok
マーク・リバック

私が日本に来て、とまどったことのひとつは、日本は「信号機のない横断歩道は車優先」ということだ。私の母国のイギリスでも、先日訪れたオーストラリアでも、横断歩道に歩行者がいれば必ず車は止まる。それがルールだからだ。日本で育った私の子どもたちは停車してくれぬことにとて驚き、「オーストラリアの人は親切だね」と感激していた。日本の法律はどうなっているのかを調べてみると、驚いたことに、日本でも信号機のない横断歩道は歩行者優先となっている。

道路交通法38条「横断歩道等における歩行者等の優先」では、歩行者や自転車がないことが明らかな場合を除き、横断歩道直前の停止線で停止できる速度で進行しなければならず、横断歩道に歩行者や自転車があらるときは、停止線で停止して、その通行を妨げてはいけなく定められている。一方、警察庁が2017年3月に公表した「平成28年における交通事故の発生状況」によると、人対車の交通事故のうち約30%が横断歩道を横断中に起きている。

このままの状態だと、海外から多くの人が訪れる東京オリンピックの際、「横断歩道では車は止まってくれぬ」のを当たり前に思っている外国人は、すぐに交通事故にあってしまうだろう。実際にわたしの母が初めて来日したとき、横断歩道であやうく命を落としそうになった。

横断歩道のルール

止まらぬ車 戸惑う外国人

日本の横断歩道で車と歩行者の行動を観察していると、車優先で、歩行者は車の途切れ目をみはからって横断しているようだ。わたしの日本人の妻も運転中に横断歩道で停車しないひとり。その理由を尋ねると、「日本人は人を待たせることを心苦しく感じる。停車してあげると慌てて渡るうとして、反対車線の車にひかれてしまうリスクが高まるから、下手に止まらないほうがいい」と話す。車も歩行者もお互いに迷惑のわからないあうんの呼吸をもって横断歩道と付き合っているのだろう。

しかし、これは外国人には通じない。外国人は「日本人は親切で礼儀正しい」と信じているので、きつと横断歩道でも「必ず停車して、私たちが渡り終わるまで笑顔で見守ってくれるだろう」とかなりの期待を持っている。そのため、オリンピックイヤーの2020年だけでも歩行者優先のルールを徹底するが、「日本では横断歩道で車はとまりません」と空港に降り立った外国人全員によく周知するか、どちらかにしないと、「日本人は思っていたほど親切じゃない」とがっかりさせるだけでなく、実際に事故にあう外国人も出てしまうだろう。オリンピック成功のためにも、ぜひこの問題に真剣に取り組んでほしい。

平成29年11月9日 朝日新聞

天声人語

外の世界を知る視線に、はつとすることがある。先日の本紙に載った投稿もそうだった。名城大准教授のマーク・リバックさんが「日本に来て、とまどったことのひとつは、日本は『信号機のない横断歩道は車優先』ということだ」と書いていた▼母国の英国では、横断歩道に歩行者がいれば車は必ず止まる。先日訪れた薩州も同じで、日本育ちの子どもたちは驚き、感激していたという。東京五輪の年には多くの外国人が来日する。不幸な事故が起きぬよう歩行者優先を徹底してほしい。そう訴えた▼信号がないのに車が止まってくれぬと、小走りになってしまおう自分に気づく。しかし考えてみると、停止しないのはれっきとした道路交通法違反である。歩行者はもっと怒っているのだ▼今年8・9月、日本自動車連盟（JAF）が全国94カ所で実態調査をした。渡る人がいる横断歩道で停止した車は1万2511台のうち、わずか867台だった。不名誉な数字は何を物語るか▼「お上を意識して動く。そんな日本社会の特徴が出ているのではないかと」と、日本交通心理学会の太田博雄会長は言う。信号機のような明確な線りには従うが、おとがめがなさそうな場面では緩みが出てしまう。自分たちの判断で安全をつくるのが苦手なのかもしれない▼歩行者優先が無理なら「日本では横断歩道では車は止まりません」と外国人に周知してほしい。リバックさんはそんな提案もしている。きわめて合理的である。そして情けない話である。

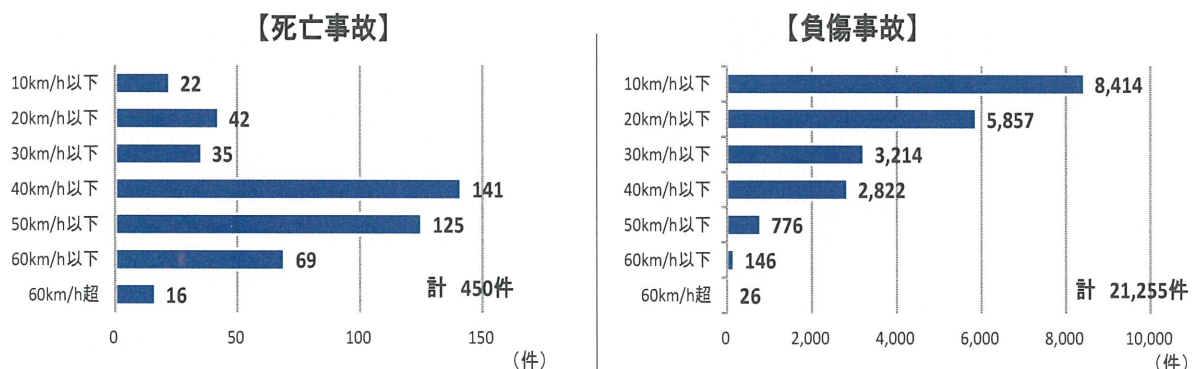
平成29年11月19日 朝日新聞

【横断歩道等における歩行者等の優先】（道路交通法第38条関係）

- 車両等は、横断歩道等に接近する場合は、当該横断歩道等の直前で停止できる速度で進行しなければならない（歩行者等がないことが明らかな場合を除く）。
- 進路前方の横断歩道等を横断し、又は横断しようとする歩行者等があるときは、当該横断歩道等の直前で一時停止し、かつ、その通行を妨げないようにしなければならない。

○ 信号機のない横断歩道における自動車の危険認知速度別歩行者の事故件数（平成25～30年）

- 信号機のない横断歩道における死亡事故では、車両側の横断歩道手前での減速が不十分



○ 「自動車対歩行者」の事故類型別死亡事故件数（平成25～30年）

- 事故類型別では、横断中が約7割を占めている。

